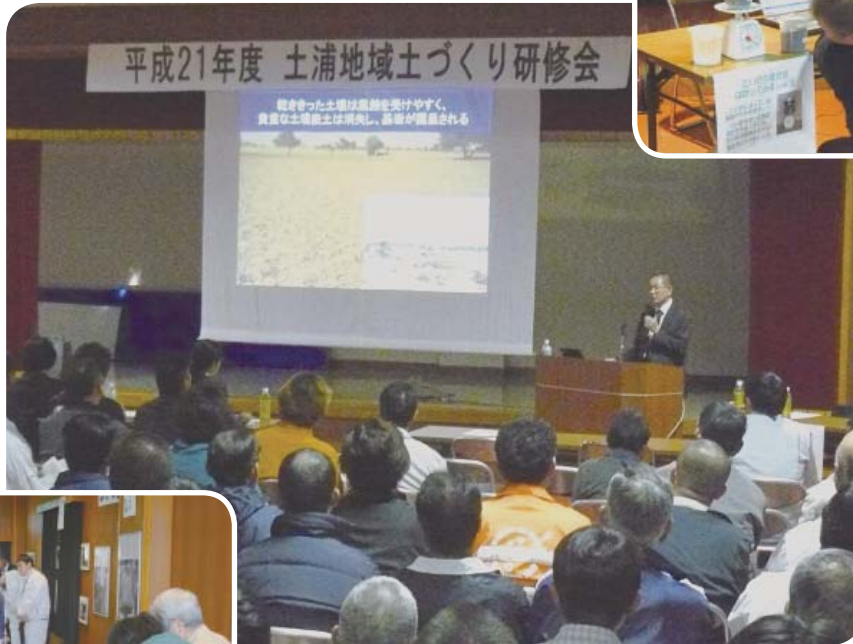


# 普及だより

平成22年1月20日 No.28  
茨城県南農林事務所経営・普及部門  
(土浦地域農業改良普及センター)  
土浦農業改良普及事業推進協議会  
土浦合同庁舎第二分庁舎3階  
土浦市真鍋5-17-26  
電話 029-822-7253  
FAX 029-822-7370  
URL: <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html>

## 農産物の収量・品質を高めるために

▶講演会の様子



▲たい肥相談コーナー



◀たい肥展示コーナー

農産物の収量・品質を高めるためには、土づくりが重要です。そこで、土づくりを推進するために「平成二一年度土浦地域土づくり研修会」を開催しました。最初に、片倉チツカリンの野口勝憲先生から「有機質肥料による土づくり」という題名で、高品質な農産物を生産するための土づくりについて講演頂きました。土づくりの大切さが十分に認識できる講演内容でした。

また「『たい肥ナビ!』利用のすすめ」という内容で、畜産センターの眞部主任から『たい肥ナビ!』の利用方法について情報提供と共に、操作方法や施肥設計等の相談を受けました。

会場内には、土浦市・石岡市・かすみがうら市で生産された家畜ふんたい肥の展示を行い、参加者は地域で生産されたたい肥を手にとって、興味深く見学していました。たい肥出品者の連絡先をメモしている方も見受けられ、農業者の土づくりに対する関心の高さが窺える研修会となりました。



病害虫防除のポイント  
平成二十二年の発生状況から

●ナシ／これからの黒星病対策のポイント

昨年、落葉上に秋型病斑（写真）が多く見られました。今年も黒星病に十分注意してください。

【伝染源の除去】

○病原菌は秋型病斑を生じた葉（落葉）で越冬し、春先からの伝染源となるので、落葉を集めて土中に埋めるか、ロータリーですき込むなどして処分しましょう。

特にSSで薬液

がかかりにくい園の周縁部では、落葉を取り除いておくことが大切です。

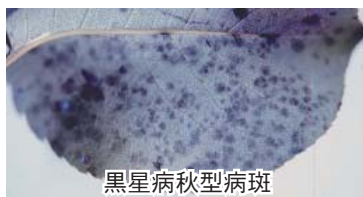
○発病した果そう基部、葉、果実は、二次伝染源となるため、見つけ次第取り除き、園外に持ち出すか、土中深く埋めましょう。

特に春先の果そう基部病斑の除去は極めて重要です。必ず見回ってできるだけ早く除去しましょう。

【薬剤による防除】

○開花期直前から開花後2週間までは、梅雨時期の7月中旬と併せて黒星病の最も重要な防除時期です。

この時期は、伝染源となる胞子が



黒星病秋型病斑

多く飛散する時期なので、初期防除を徹底して、黒星病をしっかり抑え込みましょう。

○薬剤散布は、SSの散布圧や風圧を適正に設定し、縦横散布や補助散布など工夫し、かけムラがないよう丁寧に行いましょう。

一つ一つの基本的な防除技術に丁寧に取り組んで、黒星病の発生を少なくしましょう。

●秋冬ネギ

二一年産の秋冬ネギでは、秋以降に、黒斑病・べと病・さび病が発生しました。

【発生状況】

特にべと病は、十一月以降に多発しました。十月の下旬と下旬に台風があり、十一月も降雨が多く、土壌水分が過湿気味では場湿度が高く、

気温も平年より高めに推移したために、多発したのと思われるます。

【病害対策事例】

多発の年でも病害をうまく抑えていた事例があります。

○予防薬剤の定期的散布

○天気予報に注意し降雨前に必ず薬剤散布する

○明きよなどによる排水対策

○生育や土壌水分に応じた追肥量の調節

これらの事例を参考に、耕種的防除と薬剤による予防に心がけた病害対策に努めてください。



ネギの葉身に発生したべと病

☆ダニの話あれこれ☆

ハダニ等に対する有力な天敵として、カブリダニ類が挙げられます。現在では、ボトルに詰められ、殺虫剤等と同様の「天敵製剤」として、農薬の扱いで市販されている種類もあります。一方、ほ場で普通に見られる土着のカブリダニとして、ケナガカブリダニとミヤコカブリダニがあります。これらは、ハダニの抑制に一定の効果をもつものの、多くの農薬に非常に弱いです。ほ場内のカブリダニを温存し、ハダニの被害軽減に利用しようとする場合には、ネオニコチノイド剤、IGR剤、BT剤等、カブリダニに影響の少ない薬剤を選択したり、ハダニの発生箇所スポット散布を心がけたり等の工夫をするとよいでしょう。



▲図 ナミハダニを捕食するケナガカブリダニ（白っぽいのがカブリダニ）

まちからむらから

土浦市

ナシの若手生産者が組織結成

土浦市内でナシを栽培している若手生産者（六名）が新たな研究組織「土浦おいしい梨研究会（略称・TOP）」を十一月に設立しました。

土浦市では、若手のナシ生産者が少なく、各組織に散在していたことから、組織の枠を超えた研究組織を作ることになりました。

研究会では、先進的なナシ栽培技術の習得と情報交換を目的に、当面はナシ産地の大きな課題である「ナシ若木の育成」をメインテーマに学習会や現地検討会等を行っていく予定です。

会員達は、様々な活動を通して高い技術を身につけ、地域のリーダーとなる組織、皆が入りたくなる組織にしていこうと意気込んでいます。

石岡市

おいしい梨の絵コンクール

八郷梨経営研究会では、小学生をはじめ多くの人々に八郷地域の梨をPRし、消費拡大に結び付けようと「やさとおいしい梨の絵コンクール」を昨年から開催しています。

今年も石岡市内の小学校を中心に、遠くは山口県、愛知県から寄せられました。一―三点の応募作品の中か

農薬の適正使用について

平成一八年五月二十九日に食品衛生法が一部改正され、ポジティブリスト制が導入されました。

ポジティブリストについては、いくらか残留があっても規制でさずに問題となっていました。

従来の制度では一定限度以上の残留を禁止する農薬をリストアップしていましたが、残留基準が設定されていない農薬については、いくらか残留があっても規制でさずに問題となっていました。

ポジティブリスト制度とは、すべての農薬等の残留基準を設定し、農薬等が一定量以上残留する食品（農産物等）の販売等を原則禁止する制度です（図）。残留基準を越えた農産物は食品衛生法に基づき、流通禁止となり、すでに流通した農産物は回収等の措置が必要となります。

また、農薬には農薬取締法に基づく登録制度があり、毒性や残留性等の審査を受け、国に登録された農薬でなければ、販売が禁止されています。この制度によって農林水産省による安全性に関する検査がなされ、適切な使用方法が決められています。農薬使用者はそれらの使用方法を守り、さらに周囲に飛散させないようにすることが重

要です。

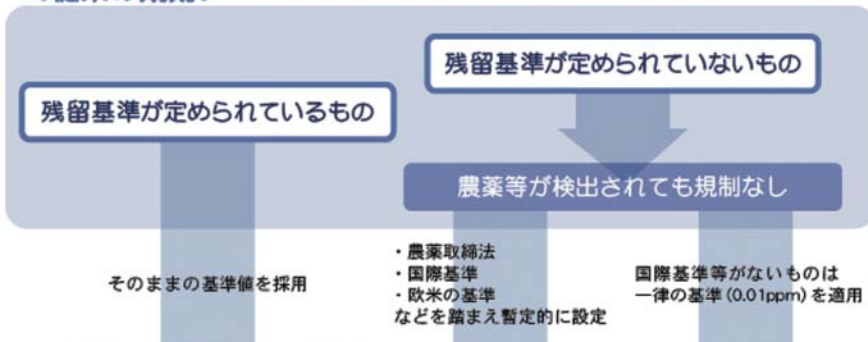
●残留基準をオーバーしないために

- 農薬の使用基準を守りましょう（ラベルに書いてある適用作物、濃度又は使用量、使用時期、有効成分ごとの総使用回数を守りましょう）
- 散布した後は防除機具の洗浄を行います
- 自分の田や畑等のまわりにある作物を調べて記帳しましょう
- 周辺の田や畑の人と連絡をとりあって、農薬散布の計画を立てましょう
- 農薬を使用する際には、周辺の作物となるべく共通に登録のある農薬を選択しましょう
- 周辺の作物の収穫期が近くなったら特に飛散に注意しましょう

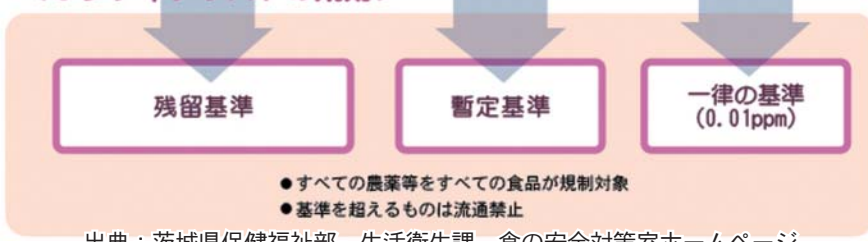
●飛散（ドリフト）を抑えるために

- 風が強いときは散布しないようにしましょう
- 散布圧力を上げすぎないようにしましょう
- 遮断シート・ネット

<従来の規則>



<ポジティブリストの規則>



出典：茨城県保健福祉部 生活衛生課 食の安全対策室ホームページ

- ト等の設置をしましょう
- 飛散しにくい剤型（例 粒剤）へ転換をしましょう
- 圃場の端の散布は手散布等で実施しましょう
- ソルガム等を作付け、緩衝地帯を設けましょう

かすみがうら市

トレーニングファームを設置

市では、耕作放棄地と担い手不足解消のため、耕作放棄地を市が所有者から借り上げ、市民農園トレーニングファームとして整地し、最大一〇aを希望者に貸し付ける事業を始めました。

かすみがうら市在住の一六歳以上であること、将来的に販売農家を目指す意欲があることが貸付条件です。また、貸付者にはプロの農家が農業後見人として委嘱され、販売農家としての技術を学べます。

既に一〇月から、四人が霞ヶ浦地区と千代田地区で新たな担い手を目指して栽培を始めました。

新規参入者の定着を図る市の取り組みは関係者から注目されています。

最優秀賞 『梨がたくさん！幸福だなあ』



ら、最優秀賞に伊藤さん（茨城県）、優秀賞には奥野さん（茨城県）と長尾さん（埼玉県）がそれぞれ選ばれました。

## セルトレイによる育苗方法

コギククの育苗に、セルトレイを用いた育苗方法が広まっています。

そのメリットとして、①育苗管理がしやすい②苗揃いが良い③根を傷めることがない④活着及びその後の生育がよい、といった点があげられます。デメリットとしては、根域が限られるため、細やかな水管理が必要になるといった点があります。

親株管理は他の育苗方法と同じで、草丈が伸びすぎないようにして病虫害防除を徹底します（白さび病やハダニ類・アザミウマ類等）。

### 【摘心】

さし芽を行う三〇日から四〇日前に摘心し、わき芽の発生を促します。八月咲きは二月上旬に行います。摘心後に十分灌水し、その後は控えます。

### 【採穂】

採穂する二〜三日前にアブラムシや白さび病の防除を行っておきます。

図1 下葉を除去したさし穂



本葉四〜五枚葉を付けて採穂し、下葉を除去して水あげをします。(図1)

### 【準備】

二〇〇穴程度のセルトレイに培土を詰めます。培土にはセル専用園芸培土など清潔で肥料分の少ない土を用います。培土はあらかじめ十分湿らせておきます。

### 【さし芽】

本葉二〜三枚、草丈四〜六センチメートルに調整した芽をトレイに挿します。

### 【さし芽後の管理】

さし芽後は十分に灌水し、その後五〜六日間は灌水を控えます。また発根を確認するまで一週間程度寒冷紗（遮光率六五パーセント程度）で遮光し、その後、徐々に日光に慣らしていきます。

五〜二五℃になるように温度管理します。特に日中は換気を十分に行います。

また、トレイから根が出ないように、トレイの下にはパイプ等を敷きます。

図2のように、根鉢が崩れない程度に根の張った状態が定植適期です。

図2 定植適期の苗



## 適期収穫チャートでコシヒカリの 高品質米生産をしよう！

籾の状態を、判定基準の写真と比較することで収穫適期を簡易かつ正確に判定・予測できる「水稻コシヒカリ適期収穫チャート」が完成しました。是非、高品質コシヒカリ生産にご活用ください。使用希望の方は普及センターへ連絡いただければ取り扱い等の説明をいたします。

### 水稻「コシヒカリ」適期収穫チャート

#### 1 特徴

- 1) **収穫適期の判定**  
籾などの状態から、収穫適期を正確に判定でき、安定した高品質米の生産が可能となります。
- 2) **収穫適期の予測**  
籾や立毛状況などの状態から、収穫適期を簡易かつ具体的に予測でき、収穫の作業計画作成などへの応用も可能です。

#### 2 適期収穫チャート

成熟期前11日 (旧暦27~28日)	穀粒および立毛状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・籾粒率：55.8% (47.7~63.9%)</li> <li>・籾水分：29.4% (27.7~31.0%)</li> <li>・登熟歩合：73.8% (63.2~84.4%)</li> <li>・調製歩留：87.9% (81.0~94.8%)</li> <li>・玄米千粒重：21.2g (20.8~21.5g)</li> <li>・青未熟粒率：56.8% (56.4~57.1%)</li> <li>・外觀品質：下の下</li> <li>・検査等級：規格外(2等)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・籾粒率：32.2% (28.1~36.2)</li> <li>・籾水分：28.0% (26.5~29.4)</li> <li>・登熟歩合：82.8% (77.9~87.7)</li> <li>・調製歩留：92.5% (85.4~99.6)</li> <li>・玄米千粒重：21.1g (20.8~21.3)</li> <li>・青未熟粒率：33.0% (27.3~38.7)</li> <li>・外觀品質：下の上~中の下</li> <li>・検査等級：規格外(1等)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・籾粒率：25.0% (23.9~26.1)</li> <li>・籾水分：27.0% (26.3~27.6)</li> <li>・登熟歩合：84.6% (75.8~93.4)</li> <li>・調製歩留：91.4% (93.2~97.3)</li> <li>・玄米千粒重：21.4g (21.1~21.7)</li> <li>・青未熟粒率：24.0% (16.2~31.8)</li> <li>・外觀品質：中の下</li> <li>・検査等級：3~2等(1等)</li> </ul>	

立毛状況：籾粒率は爪で2つに切れ、汁は出ない。黄化(成熟)籾は爪で切れず、爪の跡が残らない。

立毛状況：籾の重みで籾はやや広がってくる。帯緑粒の色は薄く明るい緑色になり、多くの帯緑粒は指先で潰せず、爪では何とかが切れるが汁は出ない。

立毛状況：多くの帯緑粒は指先で潰せず、爪では何とかが切れるが、汁は出ない。また、指先で潰せ、汁が少し出る帯緑粒も確認されている。籾は帯緑粒と黄化粒がまだらに混ざった状態。

## 作物ごとの再生産価格を計算してみよう！

作物を生産し販売するのに掛かる家族労賃も含めた総費用のことを「再生産価格」と呼びます。県で作成した「再生産価格計算ソフト」(エクセルファイル)を使い、販売単価、収量、肥料・農薬費等の経営費、労働時間を入力すれば、再生産価格が簡単に計算できます。

同じ作物でも農家ごとに再生産価格は異なります。我が家における作物ごとの再生産価格が判れば、作物ごとにコスト削減方法を考えたり、別の作物の導入を検討したり、経営改善の方向を考えるのに大いに役立ちます。再生産価格計算ソフトを活用して

みたい方は、普及センターが主催する研修会を受講後にソフトをお分けしていますので、お問い合わせください。

## 就農相談会のお知らせ

土浦地域就農支援協議会では、新規に就農する皆様を対象とした就農相談会を実施しています。

栽培技術、農業制度資金、研修講座等お気軽にご相談ください。

【日時】毎月第三木曜日、午後一時三〇分〜五時。事前に電話などでご連絡ください。時間調整し、就農支援スタッフが対応いたします。

【会場】茨城県東南農林事務所経営普及部門(土浦合同庁舎第二分庁舎三階)  
電話029(822)8517